

令和6年度 第1回博物館協議会 議事録

日 時：令和6年7月2日（火）14：00～16：00

場 所：八戸市博物館 2階 体験学習室

出席委員：9名

工藤竹久会長、滝尻善英副会長、元沢弘委員、有馬克美委員、平間恵美委員、
鳥谷部隆雄委員、工藤由貴子委員、新山聡委員、高橋英臣委員

事務局：8名

八木田教育部長、松橋教育部次長兼教育総務課長、
小保内博物館館長、佐々木博物館副館長、下村南郷歴史民俗資料館長、
米田主査、野沢主査兼学芸員、小林主査兼学芸員

次 第

1 委嘱状交付

2 開会

3 教育長挨拶

4 会長挨拶

5 案件

(1)令和5年度事業実施報告について

(2)令和6年度事業計画について

(3)その他

※1～4省略

5 案件(1) 令和5年度事業実施報告 質疑応答

(事務局説明後、質疑応答)

<八戸市博物館分>

●会長

事務局から令和5年度事業報告がありましたが、何かご質問はございますか。

それではまず私から。えんぶり展は、今回内容が刷新されていまして、パネルの説明も分かりやすく好印象でした。昭和3年のえんぶり調査のことも触れられていましたが、その点少し補足していただけますか。

○事務局

長者山新羅神社では、昭和3年当時、長者山に集まるえんぶり組と苗取り組の調査を実施していたのですが、その当時の資料が図書館に保存されておりましたので、今回披露しました。市史にも載っていないもので、はじめて公表するものになります。

この資料によりますと、この頃127組が新羅神社に奉納して八戸市中で門付けをしていました。今のえんぶり組はだいたい30組～40組位なので、今の3倍もの組が参加していたことになります。

●会長

苗取り組を除くと何組ですか。

○事務局

約110組です。遠くは三戸や五戸からも来ていたようです。

●会長

研究の成果が出ているようですので、あとで報告書にまとめられるのを楽しみにしています。刀剣展は意外と人が結構入っているなと思ったのですが、客層は刀剣に興味がある私たち世代の方が多かったのですか、それとも若い人もいたのでしょうか。

○事務局

若い方も相当数いらっしゃいました。アンケートでは、特別展が終わったばかりなのに次も刀剣をテーマした展示を開催してほしいというような要望もいただき、根強い人気があると感じております。

●会長

新しい傾向がみられるということですね。

●委員

昨年秋の特別展、J-modeの入館者数が3,800人に対し、刀剣展は5,000人ですから、刀剣展ははずれがないですね。ちなみに博物館では何人位入ればよしとしていますか。今まで一番多かったのは確かカップ展でしたよね。

○事務局

これまでで一番多かったのは開館時の南部武士展で、この時が圧倒的に多かった。特別展は平均すると5,000人ほどです。

●委員

では、J-modeはもっと入ってもよかったと評価しているということですか。

○事務局

考古がテーマの展示だと基本的にあまり人が入らない傾向がありますから、それほど悪かったと考えていません。人口減少の要素を加味すると、4,000人でもかつての5,000人に相当するのかなと考えております。

●会長

八戸市博物館は、八戸市にある博物館という意味のほかに、三八地域の中心となる人文系博物館としての位置付けもあったと思います。三八地域から来られる来館者の傾向や数はある程度把握されていますか。

○事務局

アンケートを書いた方だけになりますが、階上、おいらせ、三戸など近隣の町村からいらっしゃる方が一定数いることは把握しております。

●会長

三八地域の歴史を総合的に見ることができる施設はここ以外にないと思います。県立施設で南部地方が触れられていることがあるのですが、やはり県全体をまんべんなく取り扱わなければなりませんので、南部地方が中心に取り扱われることはありません。

そのようなことから、八戸市にある博物館の存在意義というのは決して小さくないと

思います。このあたりを意識して今後の事業を展開してもらえればと思っております。

<史跡根城の広場分>

●会長

続いて、史跡根城の広場の事業のことで何かございますか。

●委員

ボランティアガイドは、今年の4月～5月で640人ほどご利用いただいておりますが、その内訳は県外客が374人に対し、県内客が266名と、県外客が多い状況です。近年は年配の方が旅行で立ち寄るというパターンが多く、首都圏を中心に、関西や九州からもいらっしゃっています。

●会長

県外客が増えているという話題提供ですけれども、ガイドはやはり八戸弁でやってもらった方がいいのかなと思いますが、どうでしょうか。

●委員

私は標準語が喋れないので、普段からほとんど八戸弁ですし、ガイドの時も八戸弁で案内しています。地元の古い言葉も結構知っていますので、ガイドの途中に方言をところどころ挟みながら案内しています。

<南郷歴史民俗資料館分>

●会長

鉄道をテーマにした特別展は今回がはじめてのような気がしますが、結構盛況だったのではないですか。

○事務局

期間中800人ほどの集客がありましたが、来られた方は展示に非常に興味深くご覧になられていました。客層としては40代～60代、家族連れが多くみられました。

●会長

鉄道関係だといわゆるオタクという人たちに受けるという印象もありますが家族連れも多かったのですね。子どもたちの反応はどうでしたか。

○事務局

子どもたちは鉄道模型などにすごく関心をもっていました。列車に詳しい子どももいて「この列車は何々ですか」といった感じで、スタッフに声がけしている様子も見られました。

●会長

いい企画だったのでないかなと感じますね。他に何かございますか。

●委員

特別展のポスターを八戸市内であまり見かける機会がなかったので、もう少し市内の親御さんたちにも届けばいいなと思っております。前にこの場で発言したことがありましたが、私たち(こどもはっち)にチラシやポスターなどを提供いただければ発信はかなりできますので、活用いただければいかがかなと思っています。

企画内容はすごくいいので、広報をもっとやればもっと集客につながると思います。

●会長

関係する施設とうまく連携するともっと人が集まる可能性がありますね。

●委員

もっと集まると思います。

●会長

他に何かございますでしょうか。

●委員

南郷(歴史民俗資料館)は展示スペースが限れているからということもあるでしょうけれど、テーマはディープなものが多くて、知らないうちに時間がだいぶ経っていたこともありました。公共交通機関が通っていない場所ですので、皆さん自家用車でいらっしゃると思いますが、そういう意味では時間に余裕を持って見に行っている人が多い印象です。

市内には、博物館のほかに南郷、是川、はっち、美術館とか、文化施設がだいぶ充実してきましたが、あちこち足を運ぶのは少し面倒だと感じています。青森市には市内を循環するねぶたん号というのがありますけど、特別展の期間だけでも各施設を循環するマイクロバスを整備するというのも考えてみたらいかがでしょうか。

●会長

一つの提案がございましたので、出来るかどうか少し検討してもらえればと思います。他に何かございませんでしょうか。

●委員

博物館などの文化施設は子ども連れのイベントがきっかけで足運んでもらうことも多いと思います。そういった意味で、赤ちゃんの手形などのイベントはすごくいいと思っております。

年報に学校行事での利用というのがありますけど、市内の学校数から考えると、活用は半分か3分の1程度じゃないでしょうか。博物館の受け入れ態勢としてこの程度で抑えているものか、もう少し申込あれば受け入れますよというものなのか、この点お伺いします。

○事務局

私たちからは積極的に博物館を活用してくださいと案内を行っているところです。これに対して学校側では、博物館に見学に行く学校、出前授業を申し込む学校、青森県立郷土館など市外に見学に行く学校など様々だと思います。

小学校のカリキュラムでいうと3～4年生の段階で、おそらく全ての学校が郷土学習をやっていると思っております。

●委員

3～4年生は社会科見学がありますので、その機会に博物館に来ることができれば実際に展示品を見られるというよさがあります。ただ、最近バス代が高騰しております、例えば是川から博物館に行くだけでも一人当たり1800円位かかりますので、簡単には来られないという状況があるかもしれません。

●委員

子どもたちは入館料が無料になったのはいいですけども。今、委員がおっしゃったように交通費がかかるというのであれば、教育委員会で何か対応してあげてもいいような気がしますけれども、いかがでしょうか。

○事務局

はっふる隊(=発見!ふるさと体験隊)を活用いただければ、バス代がかからずに三戸・八戸圏内を行けるという制度はあるのですけれども、バス代の高騰のあおりを受けて活

用できる学校の枠が小さくなっているという状況です。その場合は出前講座を申し込んでいただければと思います。

●委員

そうですか。分かりました。

●委員

市で福祉バスっていうのですか、よく鷗盟大学の人たち乗ってあるいていますけれども、ああいうのも学校には行かせたりできるのですか。

○事務局

借りられないです。福祉団体だけです。

●委員

年報 22 ページに「おとなの博物館クラブ」の内容が記載されていますけれども、講座によっては参加者が 1 人、2 人というものがあって、他の講座と人数にばらつきがあるのですけれども、参加者数が少ない講座は今後どうしていくか館内で話し合いなどしているのでしょうか。

毎年同じ内容を続けて、今年は少ないとか少ないまま何年も続いているような傾向も見られた場合に、何か対策みたいなことやられているのかなと思ひまして。

○事務局

参加者が少ない講座は何度やっても少ないままだと思いますので、その場合は取りやめも視野に、毎年見直しをしております。集客に関しては開催日の問題もありますので、開催日も見直しを行っております。

●委員

同じことを繰り返すじゃなくて、館の中で話し合っただけで次の目標に向かって進んでいくみたいなことを大事にしてもらいたいと思います。よろしくお願いいたします。

●委員

年報 22 ページに未就学児対象のイベントとして「落ち葉であそぼ！」がありますが、土日の開催だと職員も少ない中なので開催しているので負担が大きいと思います。

未就学児のお母さんたちは平日の午前は意外と空いているので、例えば平日のイベン

トを企画してくれれば、私たち(こどもはっち)の方から情報を流して、集客もできるので、共催でもいいですし、何か連携できればすごくいいかなと思っています。

●会長

連携の一つの在り方を提案していただいたので、ぜひ次の事業計画に活かして欲しいなと思います。

●委員

年報 22 ページ「古文書・古典籍」の参加者が 1 名だけということでしたが、非常にいい講座にもかかわらず寂しく思います。

青森県文化財保存協会にこの話をもってきてくれれば、会員の中には何人か参加する人たちがいると思います。締め切りが過ぎても定員に満たないよう場合、私たち協会の者に一声かけてくれれば、仲間を呼んで一緒に参加するということできます。そのような連携が図れれば人数は十分集められると思います。

●会長

参加者数だけで講座の開催意義を評価するのは難しいのですが、広く周知して開催してほしいという意見もありますので、PRの対象を広げてほしいなと思います。

他に何かございますでしょうか。なければ令和 5 年度の事業実施報告については以上にしたいと思います。

5 案件（2）令和6年度事業計画について 質疑応答

（事務局説明後、質疑応答）

●会長

ただいま事務局より令和6年度事業計画について何かご質問はございますか。

まず私から。新収蔵資料展に島津家の家紋が入った漆器がありました。私たちは^{くつわじゅう}轡十

^{じもん}字紋と呼んでいたように記憶しているのですが、^{くつわじゅうじ}轡十字とは違うものですか。

○事務局

轡十字は丸に十字だけで^{くつわもん}轡紋と言うようで、呼び方は様々あるようです。資料名は展示情報に登録した時に轡十字としています。

●会長

轡十字が正しいのかな。

○事務局

はい、一般的な呼び方になります。

●会長

勉強になりました。資料7ページ、体験講座「虫むしGO!」では、八戸インセクト研究会が講師ということですが、子どもたちが喜ぶのではないですかね。これ去年はやれなかったのでしたっけ。

○事務局

子どもからは好評でした。一昨年は開催しましたが、去年はやっておりません。

●会長

タイミングが悪かったとかそういうことですか。

○事務局

はい。広場の行事との兼ね合いと日程調整が合わず実施できなかったものです。史跡に親しんでいただきたいということでやっぱり子どもたちのために今回復活したような

感じになっています。

●会長

こういうタイトルだと、こどもはっちとも連携とれて子どもたちが来そうな感じ？

●委員

体験講座「虫むしGO！」に限らず、博物館、南郷とも今年は特別展のテーマが面白いと思っております、私たちとも何かこれ連携できるかなと思っております。去年の刀剣展、J-modeもそうでしたが、チラシがすごく素敵でしたよね。チラシを見ただけで行ってみたいくなるような感じだったので、いろんなところに置くと、集客ができるのじゃないかなと思っております。青森駅にできた「あおもり縄文ステーションじょもじょも」ですが、集客が好調なようなので、ここに特別展のチラシをおいてもらえると、青森方面から親子連れが見に来るようなことも期待できると思います。

あと、夏季特別展「きらめく八戸」では、街かどミュージアムの小倉さんとタイアップして、昔の映画の上映会もやることもできるし、南郷もこけしの絵付け体験できればやってみればいいと思います。それぞれの施設がお互いに刺激し合えば、すごく集客できる可能性があるかなと思っております。

●会長

ありがとうございました。新任の委員からも感じたことがありましたらどうぞ。

●委員

初めて参加させていただいて、博物館でこのような面白いイベントをやっているということを知りました。小さい子どもを持つ親世代の多くは何かイベントがあれば行きたいと思っておりますので、八戸市内に限らず青森市や岩手県北も含めて人が集まりそうなところにチラシを置くだけでも集客という点では違ってくるような気がします。

若い人は新聞を読まないですし、若い親世代も新聞読まなくなっているの、新聞広告の効果は限定的だと思います。うちの娘もそうですけど、TikTokやXでたいいの情報を得ていて、新聞、テレビはほとんど見ません。SNSのようなただで宣伝できる媒体にはまだ可能性がありそうな気がします。

●会長

ありがとうございました。だいぶPRの仕方の最新のものを使うようにという方向に

移ってきているように思います。事務局から何かございますか。

○事務局

年報 27 ページに情報発信ということでいろいろ書いております。定番のポスター、チラシを県内主要施設、全国の博物館などに少しずつ配っているほか、新聞や雑誌類、XやフェイスブックといったSNSを活用しています。

もちろんホームページにもイベント情報は掲載しておりますが、SNSのフォロワー数がいまだ3桁という段階ですので、なかなか拡散はしていったないのかなという状況です。

●会長

課題はいっぱいあるという認識なのですね。

●委員

私立幼稚園協会ではイベントのチラシをこども未来課のボックスから送っていただいております。そこを各園が持って行ってあります。それを園の玄関などに掲示をしているのですが、私たちも「ここ注目!」とかやってみたらお母さんたちももっと見てくれるのかなど。企画自体はとても楽しいものになっていると思いますので、そういうところをもうちょっと幼稚園としても呼びかけていこうと思いました。

●会長

ありがとうございました。他に何か感じたことがありましたらお願いします。

●委員

今回初めて参加させていただいて、いろいろな事業があることを知りまして、同じ社会科の教員たちに普及していかなければならないなと思っています。最近は県外出身の社会科教員や、若い教員も増えてきています。その中でどのような郷土学習を指導していくべきか日々研究しています。今日たくさんのお情報をいただきましたので、これをもとに私たちの研究会の中でもいろいろ広めながら進めていきたいと思っています。

●会長

ありがとうございました。相当たくさんのお事業が詰まっているものですから理解するのが大変だと思いますが、引き続き会議に参加して吸収していただければありがたいと思います。

●委員

PRの関係だけでも、南郷島守に住んでいますが、普段から岩手県内のチラシが入ってきます。南郷は近隣だと軽米や二戸市と結びつきが強い土地柄です。中沢中学校から軽米高校に10名ほど行っていますし、南郷には軽米は岩手県じゃなくて青森県だと思っている人もいるくらいです。イベントをPRするときは軽米、二戸、久慈なども含めてポスター、チラシを配布したらいいのじゃないかなと思います。

●会長

ありがとうございました。あと何がございますか。

●委員

来館者のアンケートって取っていると思うのですがけれども、来館者の属性というか、市内の人なのか、市外の人なのか、県外だったらどこが多いとかという集計はとっているのでしょうか。

○事務局

アンケートを集計してもそれがどこまで正しいか分からないのが正直なところです。回答欄の「市外」だけだとその人がどこから来た人か分からない。市外のどこから来たのかまで書いてくれる人が多くない状況です。ただ、最近は県外客が多いなという印象です。

○事務局

今の点、補足します。直近のえんぶり展、ひな人形展の場合では、市内が55.4%、市外が43.5%、市外のうち県外がほとんどです。遠くは台湾など海外からのお客様もいらっしゃっております。

●委員

40周年のリニューアルという話が出ていましたけれども、事業を見ると図書館と連携した歴史講座がありますよね。満席状態になっていて、やはり地元の歴史に感心がある人が多いなという感じなのです。参加している方を見ると、相当年齢層が高いですね。皆さん耳が遠くなってきていて、音響がもう少しよくなればと思っていましたので、音響機器のリニューアルも検討いただければありがたいなと思っています。

○事務局

音響機器はまだ開館当時のものを使っておりました。これらのリニューアルも検討いたします。

●会長

リニューアルに向けて音響の整備の話題も出てくると思いますので、参考にさせていただきたいと思います。続いて、案件3「その他」に移りたいと思います。事務局から何か報告案件等ありますか。

○事務局

特にありません。

●会長

それでは、本日の案件は終了いたしましたので、会議の進行を事務局にお渡ししたいと思います。（以下、事務連絡等）